

医療側と患者様側の両方の気持ちが分かる

医師になった現在、当然医療側の思考はよく分かります。しかしながら、私は20代半ばまで医療人ではありませんでしたし、そもそも10代の頃はまさか自分が医師になるとは全く思ってもいませんでした。だから、医療人ではない立場の気持ちもよく分かります。病気そのものに対する不安や、治療に対する憂鬱感など患者様のお気持ちもよく理解できます。

そして、悲しいことですが、私の周囲には若くして病気で亡くなった友人がたくさんいました。今なお難病と闘う友人もたくさんおります。『回り道』が故に、本当に様々な方々の、様々な立場の、様々な思考に寄り添える心の土台が形成されました。



地域貢献の為に

堺で生まれ、堺で育った私が、堺で「恩返し」を、という大きなことを述べるつもりはありませんが、単純にお世話になった方々、そしてその方々の大切な方々、そしてまたその方々の大切な方々へと自分ができる医療で地域貢献できればと考えております。自分を育ててくれた地域へ『恩返し』というカッコイイことではなく、ただ地域へ『感謝の気持ち』をお返しできればと考えております。

また、大学再受験や東日本大震災を経験することから学んだことや、人生の『遠回り』の中で自分が見てきたものの中から自分にしかできない医療があるのであれば患者様の為に真摯に取り組んでいきたいと考えております。



大切な誰かの為に

私が、10代の時、同じ高校の大切な友人が骨肉腫で亡くなりました。

20代の時、幼馴染みのお兄さんが過労死で亡くなりました。

30代前半、中学校からの大切な友人が急性白血病で亡くなりました。

30代後半、大切な友人のお子様が乳幼児突然死で亡くなりました。

現在、難病指定の病気と闘っている友人知人もたくさんいます。

クローン病、バセドウ病、橋本病、悪性リンパ腫、肺癌、乳癌、子宮癌、子宮筋腫、子宮内膜症、ダウン症、唇顎口蓋裂、心臓奇形など。

全て本当に近い友人・知人ばかり、あるいはその大切な人達で、中学時代から「何故か」自分の周囲に多くの病気があり、しかも「難病」と呼ばれる病気も多くありました。何故なのか理由もないことを知りながら、それでも考えた時期もありました。医師になった現在は、もうそれについて考えておりません。目の前の臨床に向き合い続ければ、「多分」いつか分かるのかなと思っています。

